

告 発 文 (嘉悦大学教職員会)

2018. 8月22日

学校法人嘉悦大学が、経営的に厳しいことは、同封の資料にある通り。定期預金はなく、流動資金の現金だけで運営しております。

過去には、創業者一族の不正経理があつて、腐敗が一掃されたかといえ、悲しいかな現実には新たな問題が有ります。

大学内には、経営危機を打破すべく「将来構想戦略委員会」が有ります。この委員長が著名な経済人の植村裕之氏です。

週一回程度、大学に来て、月給が50万円。(本人は、10%の5万円を自主返納と言っております)。しかしながら、この「委員会」は、何の提案をする事もなく、単なるお茶飲み会。突然に、山梨県の「日本航空学園」(理事長・梅沢重雄)に身売りする話が植村氏より出て、教職員の猛反発を買った「委員会」です。その為に、何人かの教職員が退職しました。植村裕之氏は、大学内の側近に「次は私が理事長になる」と言っております。貧しい大学を救うために、財界人としての豊富な経験を生かすのではなく、多額の月給を取るだけ。76歳になって財界人としての矜持はなく、権力(理事長)を欲する。この人は「保険屋」としても毀誉褒貶が有りましたが、嘉悦大学を食べ物にしないで、退職して欲しい。と嘉悦大学のほぼ全員が思ってます。